

2014年新卒採用、採用者数はほぼ横ばい傾向

4割以上が、就職戦線は依然「氷河期」と回答

－ 人事担当者に聞く、2014年新卒採用に関する調査 －

URL: <http://research.rakuten.co.jp/report/20121213/>

楽天リサーチ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：森 学）は、2014年新卒採用に関するインターネット調査を実施しました。今回の調査は、11月28日から29日の2日間、楽天リサーチに登録しているモニター（約225万人）の中から、全国の20から69歳の男女計800人の人事担当者を対象に行いました。

■ □ 調査結果概要 □ ■

■ 採用数はほぼ横ばい傾向。「増やす予定」の企業も増加率は微少

2014年の新卒採用数について全員に聞いたところ、13年新卒採用と比べて「横ばい予定」という回答が過半数（52.1%）となり、以下、「増やす予定」が13.0%、「減らす予定」が10.6%などとなった。「新卒採用はしていない」という回答も20.3%あった。

「増やす予定」と答えた人に昨年と比べた増加率については、「1%－10%増」（35.6%）が最も多く、「11%－20%増」（29.8%）がそれに続き、これらの回答の合計は全体の65.4%となっている。一方、「51%以上増」という回答も16.3%あった。

■ 就職戦線、依然「氷河期」と見る意見が4割以上

今年の就職戦線は、「氷河期」と「売り手市場」のどちらなのだろうか。最も多かったのは「どちらでもない」で46.6%、「氷河期」という回答が37.8%で2位となった。「超氷河期」と「氷河期」の合計は44.9%にのぼっている一方、売り手市場と見る意見（「まだ売り手市場」と「かなり売り手市場」の合計）は8.5%にとどまっている。依然、新卒学生にとっては厳しい状況が続いているようだ。

■ 企業側のソーシャルメディア活用率は約16%

近年、「ソー活」（ソーシャルメディアを使った就職活動）という言葉がメディアに登場しているが、一方の企業側は、ソーシャルメディアを採用にどの程度活用しているのだろうか。SNS（Twitter、Facebook、LINEなど）で企業情報を発信したり、学生とコミュニケーションをとったりしているかどうかをたずねたところ、約16%が「はい」と回答した。SNSを通じて学生同士で就活に関する情報を取得する機会が多くなっているため、多くの企業は、今後SNSを有効な採用ツールとして活用することが課題と言えるのではないかと。

■ □ 調査結果 □ ■

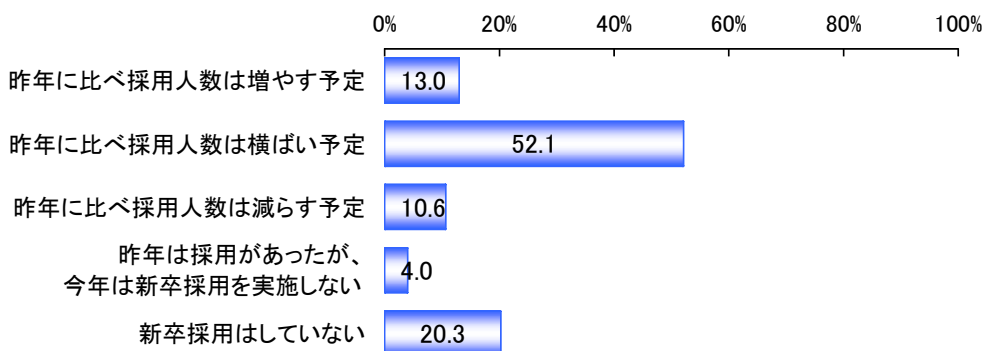
■ 採用数はほぼ横ばい傾向。「増やす予定」の企業も増加率は微少

はじめに、2014年の新卒採用数について全員に聞いた。13年新卒採用と比べて「横ばい予定」という回答が約半数（52.1%）で、以下、「増やす予定」が13.0%、「減らす予定」が10.6%などとなった。「新卒採用はしていない」という回答も20.3%あった。

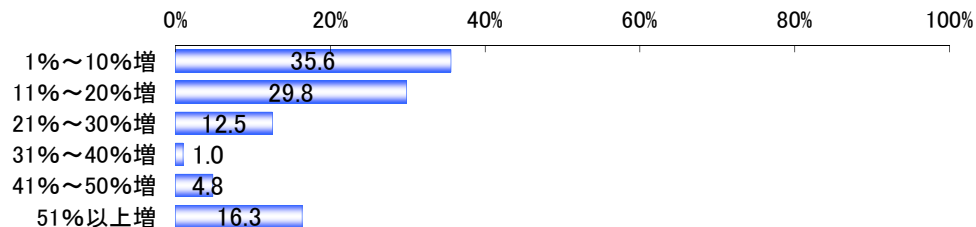
「増やす予定」と答えた人に昨年と比べて増加率をたずねたところ、「1%－10%増」（35.6%）が最も多く、「11%－20%増」（29.8%）がそれに続いた。この2回答で全体の65.4%となっている。一方、「51%以上増」という回答も16.3%あった。

同じく、「減らす予定」と答えた人に減少率を聞いた。結果は、「21%－30%減」（25.9%）、「11%－20%減」（20.0%）、「1%－10%減」（18.8%）がトップ3の回答となった。増加率に比べて、減少率の方がやや高い傾向にあることがわかる。「51%以上減」という回答も16.5%あった。

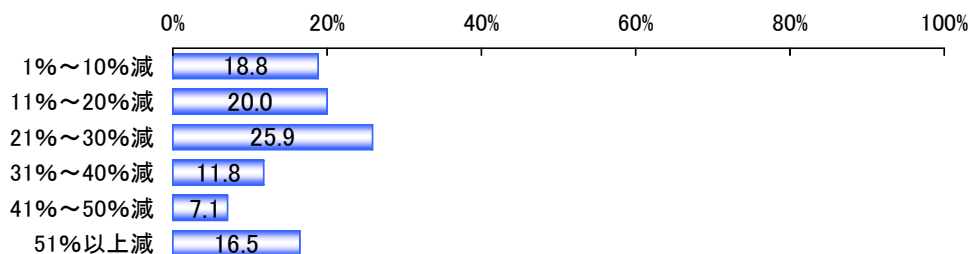
◇2013年新卒採用と比べた場合の14年新卒採用人数の増減（n＝800） 単位：%



◇2013年新卒採用と比べた場合の採用数の増加率（n=104） 単位：％



◇2013年新卒採用と比べた場合の採用数の減少率（n=85） 単位：％



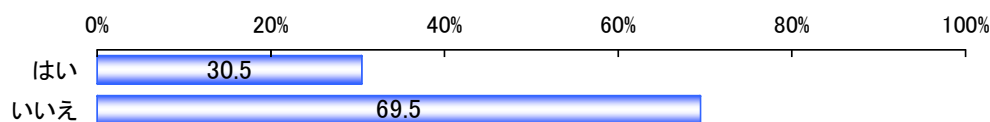
■インターンシップの実施率は3割。応募者数は横ばいからやや増加傾向に

次に、全員に14年新卒向けにインターンシップを実施したかどうかをたずねた。実施したのはおよそ3割（30.5％）で、7割近く（69.5％）は実施していないことがわかった。

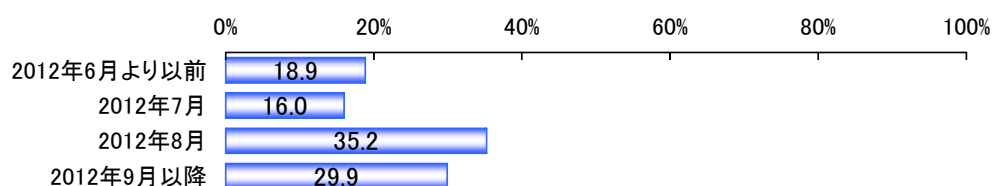
インターンシップの実施時期は、「2012年8月」が最も多く35.2％、「2012年9月以降」（29.9％）、「2012年6月より以前」（18.9％）がそれに続いた。

インターンシップ実施企業の応募者数についての質問では、「例年と変わらない」が6割以上（63.5％）で、「（昨年と比べて）やや多かった」という回答が21.3％となった。「非常に多かった」と「やや多かった」の合計は約3割（28.3％）で、インターンシップへの応募は、全般に横ばいから増加傾向にあることが見てとれる。

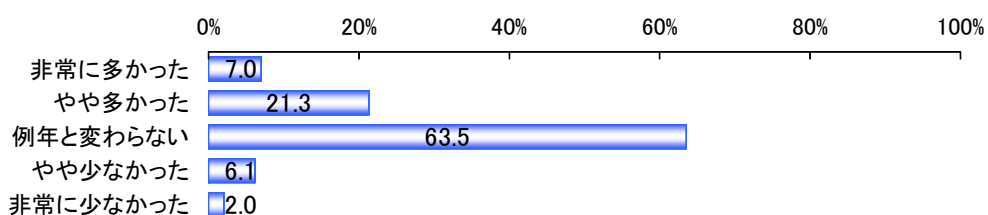
◇2014年新卒向けにインターンシップを実施した？（n=800） 単位：％



◇インターンシップの実施時期 (n=244) 単位：%



◇2013年新卒と比べた場合のインターンシップの応募者数 (n=244) 単位：%

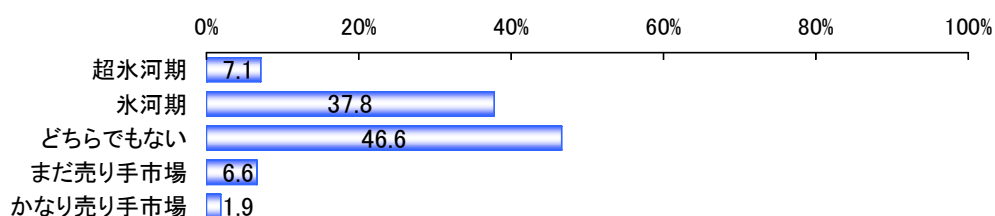


■就職戦線、依然「氷河期」と見る意見が4割以上

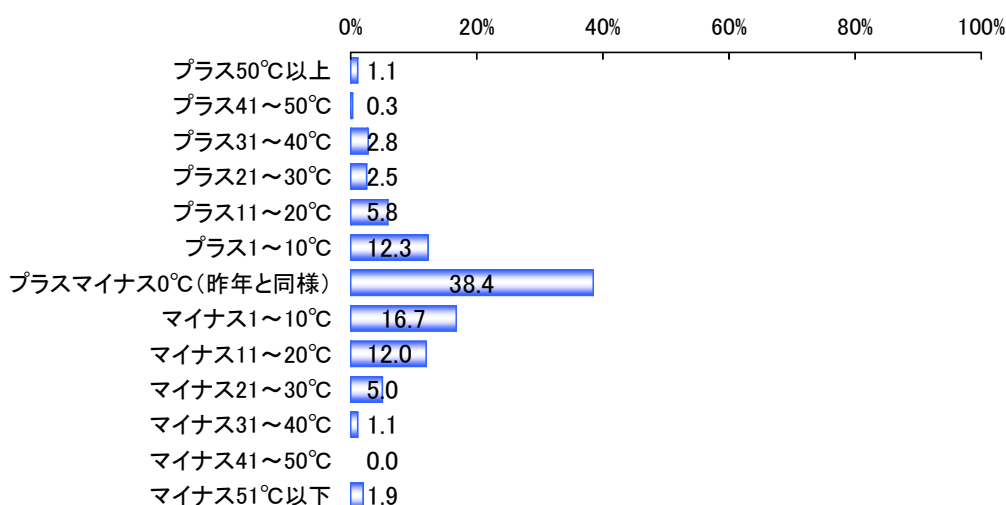
今年の就職戦線は、「氷河期」と「売り手市場」のどちらなのだろうか。最も多かったのは「どちらでもない」で、46.6%、「氷河期」という回答が37.8%で2位となった。「超氷河期」と「氷河期」の合計は44.9%にのぼっている一方、売り手市場と見る意見（「まだ売り手市場」と「かなり売り手市場」の合計）は8.5%にとどまっている。依然、新卒学生にとっては厳しい状況が続いているようだ。

さらに「氷河期」と回答した人に、13年卒採用時と比べた場合の変化を温度であらわすとどの程度かをたずねたところ、「プラスマイナス0℃（昨年と同様）」が38.4%で最多で、以下、「マイナス1-10℃」が16.7%、「プラス1-10℃」が12.3%などとなった。マイナスの合計は36.7%で、プラスの合計の24.8%を11.9ポイント上回っている。

◇今年の就職戦線をどう見る？ (n=800) 単位：%



◇2013年卒採用時と比べた場合の変化 (n = 359) 単位：%



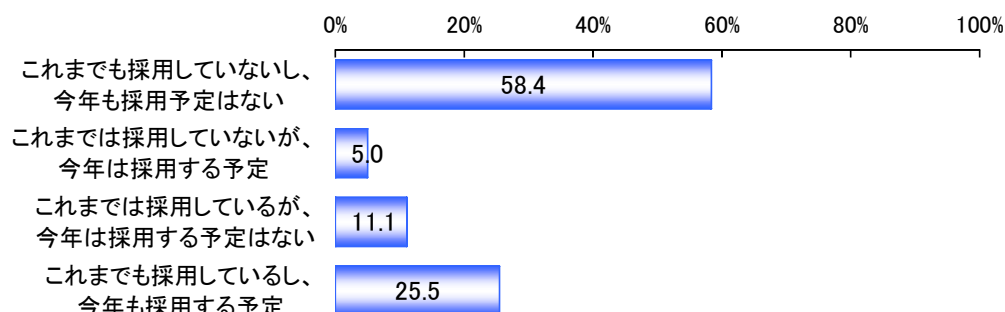
■外国人新卒採用予定は約3割。採用者数は横ばい傾向

外国人学生の採用についての質問では、約6割（58.4%）が「これまでも採用していないし、今年も採用予定はない」と回答した。「これまでも採用しているし、今年も採用する予定」は25.5%で、これに「これまでは採用していないが、今年も採用する予定」の5.0%を加えると、今年度の外国人新卒採用予定は約3割（30.5%）となる。就職戦線がボーダレス化しつつあるという指摘もあるが、外国人新卒を採用する企業はまだまだ少数派のようだ。

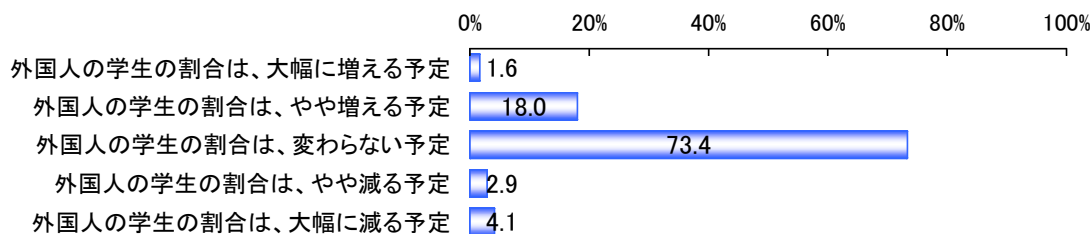
続いて、外国人新卒を採用する予定があると答えた人に、13年卒採用時と比べた場合の外国人学生の採用数の変化を聞いたところ、「変わらない予定」（73.4%）が突出して多く、「やや増える予定」（18.0%）がそれに続いた。

外国人学生の採用職種や専門性で最も多かったのは、「技術・開発・設計系」（26.6%）。「営業・事務系」（18.0%）がそれに続いている。「特に職種・専門性採用をしていない」という回答も35.2%あった。

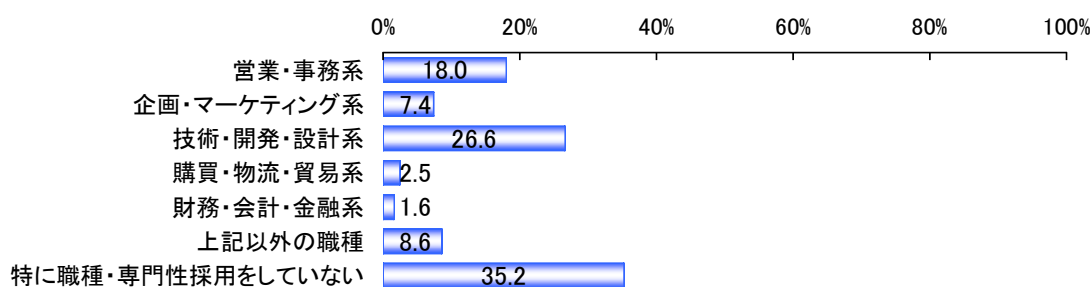
◇外国人の学生の採用について (n=800) 単位：%



◇2013年卒採用時と比べた場合の外国人学生の採用数の変化 (n=244) 単位：%



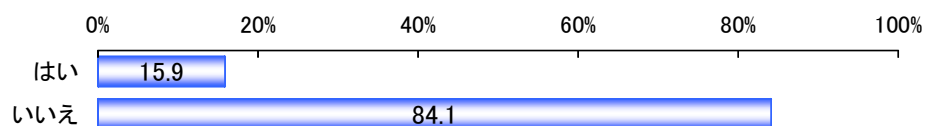
◇外国人学生の採用職種・専門性 (n=244) 単位：%



■ 企業側のソーシャルメディア活用率は約16%

近年、「ソー活」(ソーシャルメディアを使った就職活動)という言葉がメディアに登場しているが、一方の企業側は、ソーシャルメディアを採用にどの程度活用しているのだろうか。SNS (Twitter、Facebook、LINEなど) で企業情報を発信したり、学生とコミュニケーションをとったりしているかどうかをたずねたところ、約16%が「はい」と回答した。SNSを通じて学生同士で就活に関する情報を取得する機会が多くなっているため、多くの企業は、今後SNSを有効な採用ツールとして活用することが課題と言えるのではないかと考えられる。

◇SNS (Twitter、Facebook、LINEなど) で企業情報を発信したり、学生とコミュニケーションをとったりしている? (n=800) 単位: %



【調査概要】

調査エリア : 全国
調査対象者 : 20歳から69歳男女の人事担当者
回収サンプル数 : 800サンプル
調査期間 : 2012年11月28日から11月29日
調査実施機関 : 楽天リサーチ株式会社

以上

【お問い合わせ先】

楽天株式会社 広報部 (担当: 宗形・高田)
TEL: 050-5817-1104 Email: pr@mail.rakuten.com